



ローラー 障害物検知し自動停止

大成 レンタル機にも対応

大成ロテックは5日、舗装工事で使用するローラー用の衝突防止補助装置を開発し、現場に導入したと発表した。ローラーに搭載したセンサーで人などの障害物を検知し、自動で走行を

停止させる仕組み。装置はボルトの穴を利用して外付けできるため、汎用性に優れている点の特長だ。通常の自動ブレーキと異なり段階的な減速制御が可能で、急ブレーキによるオペレーターの転落を防ぐと同時に舗装面の損傷も防止する。装置はローラー前方に設置するセンサー、センサー

で検知した障害物の存在を点滅してオペレーターに注意喚起するランプ、障害物を検知した際に走行レバーに作用して停止させるシリンダーなどで構成する。従来の衝突防止補助装置は設置に際して穴開け加工などの改造が必要で、レンタル機種には使えなかったり、レンタル機種返却時に元の状態に戻す必要があった。今たりなど課題があった。今回開発した装置はボルトの穴を利用して固定するため、電気・油圧回路の改造なども不要で、全機種への設置が可能となった。導入初弾工事は国土交通

省四国地方整備局の「松山空港エプロン改良工事」。導入に当たって同社の工事担当者は「空港現場は特に夜間作業がメインとなるため、装置を取り付けることで作業員と重機の接触による災害防止など、安全性向上に貢献するのではないかと」期待を寄せている。

舗装用ローラーは運転席からの死角が多く、建設機械の中でも作業員や障害物との接触が多い。そのため作業員などの安全を確保する装置の導入が課題だった。同社では今後、装置適用機種の拡大を図り、小型転圧機械への導入や装置の小型化などに向けて改良や開発を進めていく予定だ。